

作物名 **ねぎ(根深)**

(ユリ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・播種(種まき)

△印・トンネル△印・定植

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋冬どり			○	○		△	△				□	
夏どり									○		○	△

栽培のポイント

排水の悪い畑では、根が腐りやすく生育障害を生じやすい。少しでも排水ができるように、排水溝を作ったり、植え付け位置を浅くするなどの工夫をする。高温期は生育が遅滞し、病害が発生しやすいので、施肥や土寄せを控えめにする。また、肥切れすると回復が遅くなるので、肥切れしないように追肥する。

品 種

西田 (カネコ) : 分げつ性の秋冬どりネギで収量が多い。土ネギに適する。
 冬扇 2 号 (サカタ) : 非常に揃いのよい秋冬どり 1 本ネギで、むきネギに適する。
 湘南 1 本 (県種苗協) : 分げつする秋冬どりネギ。肉質柔らかい。葉折れがある。
 長悦 (みかど協和) : 抽だいにくい四季どり可能な 1 本ネギで、直売所向き。
 秋まきトンネル育苗で、7~8 月どりができる。
 春扇 (サカタ) : 抽だいが極晩生の春夏どり 1 本ネギで、軟白長は短めだが、ネギのない春から夏にかけて収穫できる。

畑の準備

苦土石灰 (10kg/a)、堆肥 (100kg/a)、ようりん (2kg/a) を定植 1 ヶ月までに施しておく。

元 肥

(1 a 当たり使用量)

ジシアン有機化成 S806 号	4 kg	定植前
-----------------	------	-----

播 種

うね幅 60 ㌢・まき溝 20 ㌢に条まきとし、浅く覆土のうえ鎮圧する。

(種まき)

アザミウマ・ハモグリバエ対策も忘れずに。

定 植

うね幅 90~100 ㌢、深さ 10~15 ㌢の植え溝に苗を 2.5~3 ㌢の間隔で根を溝の底に広げるように垂直に植える。覆土は 5 ㌢とし、ワラで乾燥・倒伏の防止をする。

追 肥

秋冬どりは定植後、50 日位の 8 月中下旬頃に施用し、溝を埋める程度に土入れを行う。9 月中下旬に 2 回目の追肥を施用し、土をうねの肩にあげ、直接根元に寄せないよう注意する。10 月中下旬にも追肥。土を分岐点より下の位置まで、株元に寄せる。収穫 30~35 日前に最終追肥を行う。

(1 a 当たり使用量)

ジシアン 有機化成 S806 号	2 kg	秋冬どり	8 月中下旬、9 月中下旬、10 月中下旬、 収穫 30 日前
		夏どり	5 月上旬

土入れ

土寄せ

苗が倒れないよう適宜行う。葉の分岐部より上に土を入れない程度にする。最終土寄せは、秋冬どりで 30~50 日前、夏どりで 20 日前とする。なお、秋冬どりの最終土寄せは首元 (葉の分岐点) まで土を入れるが、夏どりでは首元の下までとする。

病虫害防除

病気では、やや涼しいときの多雨で発生するべと病、さび病が問題で、特に秋雨の頃の前防的な散布を徹底しないと収穫時の品質に影響するので注意する。虫害では、ネギアザミウマ、シロイチモジヨトウなどが発生する。ネギアザミウマは薬剤に強いので、できる限り系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

収 穫

秋冬どりで 11 月から 2 月頃、夏どりは 7~8 月頃。